

ふるさと応援団『龍野倶楽部』発足

龍野倶楽部代表 富岡馨

今春（平成二十五年四月）に『龍野倶楽部』は発足し、会報「龍野倶楽部通信」を発刊する運びとなりました。

当倶楽部の設立趣意に賛同し入会の申し込みをされた会員有志は、六月末をもって五十名を超えようとしています、厚く御礼申し上げます。

当倶楽部設立の芽生えは平成二十二年に遡ります。その年の十月「龍野高校山岳部OB・OG会（シニアの部）」…毎年秋に龍野にて定例開催…に参加の際、隣席の龍野在住の後輩より「建築に携わる者の視点で、龍野まちなか（特に空家）の建物の状態をみてくれないか」との依頼があり、翌日を含めその後数回にわたりまちなかを歩きました。

結果、思いのほか傷んでいる（経年劣化による）家屋が散見され、倒壊の危惧のあるものもありました。「町並みの保全と継承」を目指しての取組・手立てとしては時間的な猶予も限定的で、これからの十年がラストチャンスではないかと少なからず衝撃を受けました。

しかし、例えば博物館におけるが如く、当時のまま保存あるいは復元するだけが最善なのか。建物所有者や地域住民の皆様の意向を尊重しつつも、果たしてどのような「まちの将来像と施策」が相応しいのか、つくづく考えさせられました。

親しい龍野出身者に意見を聞いたところ、同じ思いの諸君がすぐに数名あつまることとなり、今般の当倶楽部設立の方向へ行動を起こすこととなりました。

私も多くの皆様と同様、高校卒業直後に「龍野」を離れ、その後はことある毎に《龍野ふるさと自慢》を披露しつつ年を重ねてきました。

同郷の龍野倶楽部会員の皆様と共に「龍野の自然・町並みの保存活動」への協力の方法そしてこれからの「龍野の将来像」について考え、かつ行動していきたいと思えます。

今後とも皆様のご指導・ご支援のほど、よろしく願いいたします。

平成二十五年七月 記